

いちのせきから **ストップ温暖化**

どんな冬になるのかなあ？

ずいぶん寒くなったわ。
今年の暑さがうそのよう。
元気くんはかき氷ばかり
食べたわね。



ぼくは今でも
かき氷食べたいよ！
ソフトクリームでも
いいよ！



今年の夏は、
嫌になるほど毎日暑かったね。
地球温暖化で猛暑の連続。
地球沸騰化と言われて
いるよ！

これからは
春と秋がなくなって、
四季から二季に
なるのかしら？



一関では高温障害の
ため白い米ができて、
新米の香りも薄れている
ところもあったそうだよ。



畑も水分が
足りなくて大変だったね。
これからどんな冬に
なるでしょうね。

一関市地球温暖化対策地域推進計画

(令和5年度～令和12年度)を策定しました

一関市では、令和3(2021)年2月に宣言した2050年二酸化炭素排出実質ゼロの達成のため、また、市の自然的社会的条件に応じた温室効果ガス排出量削減に市全体で取り組み、市が掲げる資源・エネルギー循環型まちづくりをさらに推進するため、「一関市地球温暖化対策地域推進計画」を策定しました。

【目指すべき将来像】

「地域のチカラを生かしてつくる
カーボンニュートルなまち いちのせき」

地域が持っている人、自然、技術の力を最大限に生かし、それらを地域でつないで大きな力とし、カーボンニュートルなまちを目指します。

【計画の目標】

二酸化炭素排出量を、令和12(2030)年度に平成25(2013)年度比46%削減、さらに51%削減の高みを目指します。

目標を達成するには、市民の方々、事業者、市が協働して取り組む必要があります。

計画の詳しい内容については、市のホームページをご覧ください。



計画はこちら



環境
セミナーを
開催したよ

私たちの生活がもたらす 生物多様性異変と気候変動



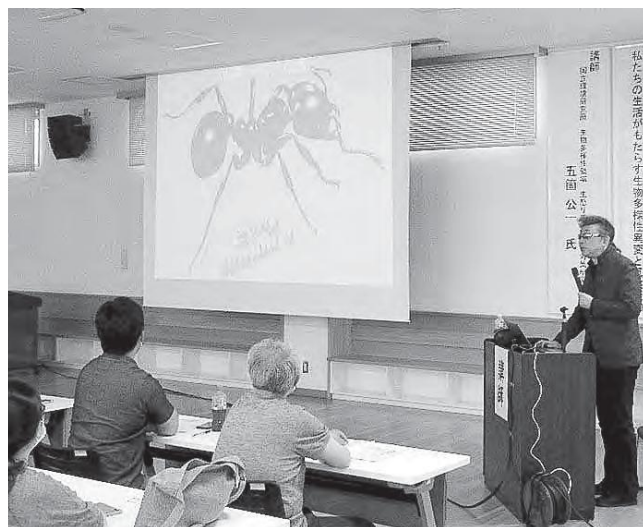
講師：国立環境研究所 室長 五箇公一 氏

6月3日(土) 15:30~17:00 一関保健センターの多目的ホールにて、環境セミナーを開催しました。

ダニやヒアリの専門家でサングラスがトレードマーク、テレビにもよく出演している生物多様性の第一人者、国立環境研究所の五箇公一室長を講師にお迎えし、「私たちの生活がもたらす生物多様性異変と気候変動」についてご講演いただきました。聴講者は84名、秋田県や県北からも来場し、その中には生物多様性に高い関心を示す新たな参加者が多数見受けられました。

生物多様性を劣化させている至近要因として、生息地の破壊、乱獲、廃棄物汚染、外来種の侵入、気候変動・地球温暖化について、具体的な事例を用いて説明をいただきました。象牙・フカヒレ・ベッコウの乱獲、身近な化粧品の成分による影響、アニメ等の影響により輸入された外来生物の野生化やヒアリの侵入、そして、グローバル化による感染症の侵入は、「増えすぎたものを減らし生態系のバランスを維持するための内なる天敵としての役割」がある、「人間にとって都合のよい生物だけが生物多様性ではない」と話されました。

最後に、生物多様性保全は人間社会持続のための安全保障であるとし、Zoning(ゾーニング)(人と動物の正しい共生のあり方)や地産地消(エネルギーも)により、今こそ、地域環境に即した持続的社會を構築



していくチャンスだと話されました。

写真やイラストが満載のスライドを用い、時には笑いを混ぜながら、テンポよい話術に引き込まれ、あっという間の1時間半でした。アンケートは60名の聴講者から回答を頂き、約半数が身の回りで感じている生物多様性の異変や減少を具体的に記載していました。40名の方が記載いただいた自由記述欄には、「生物多様性について説得力のあるお話を聞くことができた」「なんとなくの疑問や心配について、すっきりと分かった」等のご感想をいただきました。

いちのせき市民フェスタ23

参加
したよ



8月27日に千厩のアイスアリーナ、千厩農村環境改善センターで開催された「いちのせき市民フェスタ23」に参加しました。

会場に設置されたテントに、手回し発電機による電球発光実験キットや、地球温暖化に関するパネル、5月に行われた環境セミナーでの五箇公一氏の講演のビデオなど、地球温暖化と省エネ、また温暖化による生態系への影響について展示を行いました。

来訪者には手回し発電機によって電球の種類によって発光させるのにかかるエネルギーの違いを体験していただき、LED電球が楽に(少ないエネルギーで)明るく光ることを感じてもらいました。猛暑日の続いた熱い夏になりましたが、地球温暖化対策を考えてもらう機会になったと思います。

ついに到来 “異常気象が日常になる時代”

9月になっても真夏日が再三出現した一関市、ちょうどその時、地中海に面したアフリカ北部の砂漠の国リビアから死者5千数百人、行方不明者も膨大な洪水による災害のニュースが飛び込んできました。森さやか気象予報士によると9月の月間降水量5mm以下、年間降水量約200mmのリビア北部に、わずか24時間で414mmの雨が降りました。その結果、適切な管理がなされて来なかったデルナ上流の2つのダムが決壊し、町全体が押し流されました。けたはずれの大雨の原因は地中海のハリケーン「ダニエル」によるものでした。

世界を見渡せばこんなことは枚挙にいとまがなく、日本でも多くの気象災害に見舞われました。私たちの身の回りでは異常な暑さが連続しました。

熱帯夜、いく夜も続く一関、初めて出現千厩

この夏、日最高気温が新たに更新されたわけではありませんが、“かつてなく暑い”と誰もが感じ続けたことでしょう。日中に限らず、朝晩、そして夜も暑いからです。21世紀に入ってからの日最低気温が25℃以上の熱帯夜を調べてみると右表の通りです。

一関、千厩における
熱帯夜の出現数
(気象庁ホームページより作成)

年	一関	千厩
2023	16	3
2022	1	—
2021	5	—
2020	3	—
2019	3	—
2018	—	—
・・・	—	—
2006	2	—

一関では2006年に2夜、2019年以降は年に1～5夜、昨年までの総計は14夜でしたが、今年は8月に16夜、なんと半分が熱帯夜でした。また、日最低気温の高い方から10位中、8夜が今年に集中しています。

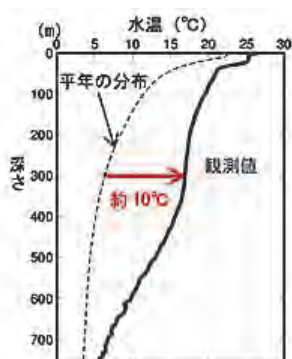
千厩では昨年まで熱帯夜がありませんでしたが、今年は3夜出現しました。このような熱帯夜の急増は岩手県内の多くの観測点で確認できます。

記録的に高い三陸沖の海水温

前号で秋サケの回帰尾数が令和になって急減していること、その原因は放流直後の三陸沿岸での稚魚生息数減少によるもので、近年の4月以降の海水温の上昇による生息適水温5～13℃の日数の急減に関係していることを記載しました。

そのことが気になり、春ごろから日本近海の海面水温を時折閲覧してきました。平年と比べて高いと薄ピンク色からピンク色へと濃く表現されますが、三陸沖ではそれが真っ赤赤、かつて見たこともない色で表現され大変驚きました。5℃以上も高い日が続く、事実なのかと思っていた矢先に、気象庁が同海域で7月下旬に調査した結果を発表し、そのタイトルは「三陸沖の海洋内部の水温が記録的に高くなっています」でした。それによると、通常は東流する黒潮が、そ

北緯 38.5 度・東経 144 度地点
三陸沖水温の深さ方向の分布
(気象庁ホームページより)



の続流の北上により表面では4℃程度、深さ300mでは10℃も高くなっている(左下図参照)とし、更に踏み込んで「水産資源の分布などに関連する海洋環境への影響が懸念されます」と結んでいます。これまで親潮と黒潮がぶつかる豊饒な三陸沖がどのような海になってしまうのか、大変心配になります。

今年の北日本、8月は記録的暑さと大雨

北海道では平年比+3.7℃、東北では+4.2℃の観測史上1位を大きく更新する記録的高温となりました。その原因は暖かい空気に覆われやすく、また台風の影響で南から暖かい空気が流れ込みやすく、日本海側ではフェーン現象も発生したためです。

また、北日本では海面水温が高いことで大気下層が冷やされにくかったこと、海洋上の下層雲の発生が少なかったことが、日射量の増加を介して沿岸地域の高温や更なる海面水温の上昇に寄与した可能性もあります。岩手県では三陸沖の海面水温が異常に高いことで、夜の気温が下がらず熱帯夜が続出した可能性も考えられます。

台風7号の遠隔影響により岩手県沿岸北部には東寄りの風により雨雲が連続的に流入し、初めて発表された記録的短時間大雨情報(1時間当たり概ね100mmを超える雨)が7回も連発されたことが特筆されます。

異常気象が日常になる時代

熱波、干ばつ、山火事、豪雨、ハリケーンなど想像を超える気象災害が地球上で毎日のように起き、国内でも熱波と大雨、逆に一部では干ばつによる被害が続いた夏でした。2016年東北太平洋岸に初めて上陸し、岩泉町などを襲った台風10号、その翌年当協議会のセミナーの演題は「異常気象が日常になる時代」でしたが、今、まさにその時代が到来しています。

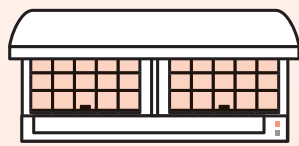
また、極域環境監視モニター(<https://ads.nipr.ac.jp/vishop.ver1/ja/vishop-extent.html?S>)を閲覧すると10年ほど前に最大だった南極の海氷面積が、今年のはかつてなく狭まり、大幅に減少していることがわかります。さらに、海氷の消失により、皇帝ペンギンの複数の繁殖地でヒナが全滅していたことも報道されました。

大気中のCO₂濃度の増加が止まらず、海水温の上昇も続き、国連のグテーレス事務総長により「地球沸騰化」や「気候崩壊」の危機が語られています。数年後に今を振り返ると、2023年から地球温暖化の猛威が著しくなったとなりそうです。

気象防災アドバイザー・気象予報士
佐々木勝裕 (IEL会員)

冬の省エネ対策

今年の夏はとても暑かったね。
冬はどうなるんだろう。



エアコンや暖房の使用で、
また光熱費が高くなると
大変だな。。。。



「衣」「食」「住」の
ひと工夫で
あたたかく過ごせるよ！

全国と比べると東北地方では、
冬に電気代や灯油代が
高くなっているんだって。



何かいい対策が
ないかな？



「衣」：首、手首、足首の「3つの首」をあたためましょう

太い血管のある部分を重点的にあたためることで体全体があたたまります。

「食」：「鍋」でからだも室内もあたためましょう

鍋はからだも、室内も暖かくなって暖房の使用も削減できます。

冬が旬の食材、根菜類、しょうがなどは、からだを内側からあたためる効果があります。

「住」：窓やドアに注目しましょう

冬、家全体の熱の約50%は窓から流出していきます。

断熱シート、複層ガラス、二重サッシや厚手のカーテンなどで窓から熱を逃がさない工夫をしましょう。

出典1：家庭部門のCO₂排出実態統計調査、環境省

出典2：東北地方の電気代平均、夏冬の電気代平均と特徴は？、エネチェンジ

出典3：ウォームビスとは、環境省

クイズ

国連広報センターは、メディアと共同で推進する気候キャンペーンを今年も継続し、キャンペーン2年目を実施すると発表しました。

下記キャンペーンの(ア)～(ウ)の空欄に入る適切な語句を教えてください。
クイズに正解した方の中から抽選で5名の方に高機能靴下を差し上げます。

「(ア)℃の約束 - いますぐ(イ)、気温(ウ)を止めるために。」

(ヒント) このページの最後までお読みください。

【応募方法】 ハガキに、クイズの解答、応募者の氏名・住所・電話番号を記入の上、IEL事務局(〒021-8501 一関市竹山町7-2 一関市役所生活環境課内)までお送りください。

当選の発表は、景品の発送をもって代えさせていただきます。ふるってご応募ください！

【締 切】 令和5年11月30日(木)消印有効

編集後記

「1.5℃の約束 - いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。」というフレーズがテレビで頻繁に流れるようになりました。NHKと民放各社が協力して、各自が直ちに行動を始めるよう訴えるキャンペーンを始めたのです。いよいよ来るところまで来てしまったと感じています。温室効果ガスの排出量をかなりのハイペースで削減しなければなりません。そのスピードがとても重要です。再生可能エネルギーへの転換に取り組むだけでは間に合いません。他人まかせではなく、各自取り組むことが重要です。(佐藤和久)